

平和記念だより



平成27年度 高松市戦争遺品等収藏品巡回展

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念係
◆連絡先：高松市番町一丁目8番15号
TEL: 087-839-2293 FAX: 087-839-2291

平成28年2月10日（水）～16日（火）まで、国分寺ホールのロビーにおいて「高松市戦争遺品等収藏品巡回展」を開催しました。

今回の収藏品巡回展では、パネル28点のほか、最近寄贈された収藏品の中から、背のう・柳行李・教育勅語など12点を展示し、市民の皆さんにご覧いただきました。

戦後70年にあたる昨年度は、前年の倍近くの49の個人・団体から、歴史資料314点、図書・DVD27点の寄贈を受けました。これらの寄贈品は、夏に開催の「高松市戦争遺品展」を始め、今後いろいろな催しで、皆さんにご覧いただく予定です。



来場者の感想

戦後70年が過ぎ、だんだんと風化している。こうした催しをひろげて、多くの方に知っていただき、二度と不幸な戦争をしないよう、みんなで努力することです。

（70歳代以上 男性）



平成28年度 行事予定



5月
May

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

平成28年5月21日（土） 午後1時～午後3時30分
場 所 高松市役所 13階大会議室
内 容 映画上映 「サクラ花-桜花最期の特攻-」
講 演 空襲体験談 太田 幸子

7月
Jul.

高松空襲写真展

平成28年7月1日（金）～ 7月7日（木）
場 所 高松市生涯学習センター エントランスホール
展示内容 高松空襲に関する被災写真・パネル・絵画の展示

8月
Aug.

高松市戦争遺品展

平成28年8月5日（金）～ 8月10日（水）
場 所 IKÔDE瓦町 8階 展示コーナー
展示内容 高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料の展示

11月
Nov.

高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

平成28年11月頃
場 所 未定
展示内容 地区の市民から寄贈されている戦争遺品を中心に公開
展示

12月
Dec.

高松市平和記念館開館記念事業

平成28年12月17日（土）
場 所 こども未来館 多目的室
展示内容 未定

1月
Jan.

教職員のための平和教育講演会

平成29年1月5日（木）
場 所 未定
講演内容 講演：空襲体験談 講師：未定
講演：未定

日本非核宣言自治体協議会研修会

平成29年1月27日（金）
場 所 こども未来館 多目的室
内 容 未定



サクラ花-桜花最期の特攻-

第二次大戦末期、一つの兵器が生み出された。それは多くの若者たちの命を奪った兵器「桜花」。プロペラも車輪もない。敵艦に向かって突撃するだけの小型特攻機。一度乗れば二度と生きて戻れず、“人間爆弾”と呼ばれた。

終戦直前の昭和20年初夏、一式陸攻機に搭載されて激戦地の沖縄に向かう。乗員は8人。彼らには、想像を絶する過酷な運命が待っているのだった……。



高松市平和を願う市民団体協議会について

『高松市平和を願う市民団体協議会』（以下『願う会』）とは、平和を願う市民の世論を高めるための諸活動を実施し、また、高松市の平和意識の啓発事業を豊かに発展させるため、平成7年7月4日から活動を開始している組織です。

現在は33団体が所属し、高松市のイベントなどにご協力いただいています。



「語り部」の会の活動記録

『願う会』の中の一団体に『高松市戦争体験を語り継ぐ語り部の会』があります。高松市内や香川県内のさまざまなところから依頼を受け、語り部活動を行っています。平成27年度には、次のような活動がありました。

語り部 (敬称略・50音順)	主な活動内容
岡田 昌子	●5/28 RNCラジオ 視聴者 「空襲の跡を歩く会」の活動について ●6/22 高松保育園 保護者を対象に ●7/15 ケーブルテレビ 視聴者 戦争体験を語り継ぐ会等の話 ●7/29 FM香川 視聴者 戦後70年を迎えての話 ●8/5 「高松市戦争遺品展」(来庁者に向けての解説ボランティア) ●9/24 医療生協東組員センター 東ブロック医療生協組員を対象に ●1/6 「教職員のための平和教育講演会」“戦後70年と高松空襲”と題して ●1/26 中央小学校 6年生を対象に
喜田 清	●6/5,27 協和中学校 1年生を対象に ●6/17 平和病院 新規採用職員を対象に、高松空襲の跡地を歩きながら ●6/29 鶴尾中学校 1年生を対象に ●8/6 創価学会の子ども達を対象に ●8/10,11 「高松市戦争遺品展」(来庁者に向けての解説ボランティア) ●9/5,6 高松第一高等学校文化祭 ●9/7 鶴尾コミュニティセンターにて平和講演会 ●10/27 三豊市上高野小学校 6年生を対象に ●10/29 平和病院 新規採用職員を対象に、高松空襲の跡地を歩きながら ●11/10 亀阜小学校 2年生を対象に ●11/18 亀阜小学校 3年生を対象に ●11/28 香川県教職員を対象に ●1/24 香川県内青少年団体リーダーを対象に ●2/26,29,3/2 善通寺市東中学校 1,2年生を対象に
小西 弘和	●6/4 香川大学医学部 看護学科学生を対象に ●12/10 木太南小学校 5年生を対象に
浄土 卓也	●8/28 高松高等学校 1年生を対象に ●9/5,6 高松第一高等学校文化祭 ●2/24 塩江小学校 6年生を対象に
戸祭 恭子	●5/27 ケーブルメディア 視聴者 空襲体験談、退避壕跡について ●6/17 香川民医連入職2年目の職員を対象に、高松空襲の跡地を巡りながら ●7/18 コープかがわ組員家族 「ピースアクションリレー2015INかがわ」 ●10/30 香川民医連入職2年目の職員を対象に、高松空襲の跡地を巡りながら

戦時用語解説49 代用品・代用食

1937（昭和12）年、日中戦争が勃発すると、それでなくとも乏しい物資はすべて軍用にまわされるようになり、代用品時代が到来した。陶製鍋、竹製スプーン、鮫皮靴、木製バケツ等々…。

1940年、日常生活のすべてにわたって節約と緊縮を指示、そこに節米、節炭、節魚、節電、節なにになに等の言葉が生まれ、広められていった。京都駅に代用駅弁として焼き芋が登場したのは1939年11月1日のことであった。当時の新聞から代用食の記事を一つ紹介してみる。

「大阪某青年学校では生徒70余名が野生植物野戦調理実習を行った。採集した雑草は洗い清め、ウマゴヤシはおひたしに、ヤブジラミ・ヨメナは胡麻和え、セリ・オオバコはバターソテー、イタドリはサラダ、タンポポは味噌汁にして食膳にのぼる。パンもハハコグサ二割入りのスフパン。サラダにまじって紅いツツジが色彩を添える。魚のフライにユキノシタの天ぷら、飯にはタコが入っている。」（1940年5月14日付 大阪朝日）



1941年6月には備荒動植物の調査概要が発表されたが、それによると雑草は1,000種、動物は100種が食糧になるという。例えばゲンゴロウの天ぷら、トンボの佃煮等である。太平洋戦争が始まると食糧事情は益々悪化し、栄養本位からの代用食が研究された。

◆芋パン…サツマイモを生のまま細く切り、乾燥して粉にし、約4割を小麦粉に混ぜ、いわし粉5分、こぶ、ひじき、あらめなどの海藻類を2分、ビールの酵母1分を混入する。

◆代用天ぷら…小麦粉を天ぷら衣より固めにねり、魚、野菜などを小麦粉汁で十分に包み、少量ずつ沸騰中の熱湯を通す。

◆イナゴのコロッケ…イナゴは魚や肉に比して遜色のない栄養価があり、原料はタダという理想的な食品（蛋白質64%）で、佃煮やイナゴ味噌としてすすめられ、またフライパンで強火でいって、すり潰してから、潰した馬鈴薯やみじん切りの玉葱に加えてコロッケを作る。



1944年頃になると、茶殻、もち草、柏の葉などを粉にして「決戦粉」と名付けて餅やパンをつくる計画が立てられ、柿皮やリンゴの皮、落花生などを用いた戦時代用パンも出現した。現代の食生活からはとても想像できない、大変厳しい状況からようやく抜け出したのは、1949年頃になってからである。

参考文献「戦前・戦中用語ものしり物語」北村恒信

編集メモ

平和記念館の開館まで、あと半年程となりました。新しくなった平和記念館では、子どもたちに分かりやすく、親しみやすい平和学習の場を提供できるよう準備中です。準備の状況など、次号以降でお知らせできればと思います。お楽しみに。

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業をご覧ください）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>